

活動成果報告書

平成27年度（第19回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

“地域で共に生きようフェスティバル”
～精神疾患・精神障がい者に対する正しい理解に向けて～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

安曇野市地域で共に生きようフェスティバル実行委員会
代表者：高橋 奈津子

勤務先：安曇野市役所

所 属：福祉部 福祉課

所在地：〒399-8281

長野県安曇野市豊科6000番地

TEL：0263-71-2251

FAX：0263-71-2328



【地域で共に生きようフェスティバル当日の様子】

◇活動方針

精神疾患・精神障がいは誰にでも起こりえるものであり、また適切な治療や支援により障がいが軽減するものとなっています。しかし、正しい知識については未だ十分に浸透していない状況となっており、精神障がい者の地域での自立等社会復帰を妨げる要因となっております。

精神障がい等当事者（以下「当事者」と記載）に対する肯定的なイメージの形成、それまでの誤解や偏見の除去、軽減に対し、地域住民と当事者と交流の機会を設けることが有効と思慮され、また、当事者がフェスティバル等に参加することにより生活の質を高めることにも繋がります。

上記を目的に、安曇野市内の精神障がい者を主に対象としているサービス等事業所や当事者、公募により申し込みをされた市民の方々と保健師等当市担当職員により「地域で共に生きようフェスティバル実行委員会」を組織し、普及啓発活動として交流事業を開催します。

◇活動内容とその成果

○活動内容

「地域で共に生きようフェスティバル」（当事者と地域住民の交流事業）の開催

1. 「安曇野市地域で共に生きようフェスティバル」実行委員会の設立と実行委員会の開催

安曇野市精神保健社会福祉施設等連絡会の出席者を中心に広報による一般公募の委員を募集し、月1回程度の委員会を開催し、フェスティバルの企画運営をおこないました。

活動成果報告書

2. メインイベントの開催

市内太鼓連合会による「和太鼓」の演奏とメインイベント参加者が「和太鼓の演奏体験」及び「信濃の国体操」を通して、障がいの有無を問わず楽しい活動、時間を共有しました。

3. 障がい福祉サービス事業者等による啓発

当事者を支援する障がい福祉サービス事業者等の日頃の活動の DVD の作成と放映を行い、当事者の活動の場、活動内容についての周知を行いました。

また、DVD は当事者、支援関係者への啓発の為に活用する予定です。

4. 参加事業所による各種イベントの開催

「実行委員も含め誰でも楽しめる企画」をコンセプトに「〇×ゲーム」「ビンゴゲーム」「手芸」当市の農産物を応援する妖精「あづみ〜ず(キャラクター)との写真撮影会」、「うす焼き・綿あめの配布」等当事者と地域住民の交流を実施しました。

5. 物品等の販売

障がい福祉サービス事業者で製作している物品等の販売により、当事者と地域住民の交流と、障がい者の通所する事業所の活動周知を行い、当事者等の就労等意欲の向上を図りました。

6. 相談窓口の設置

障害者総合相談支援センター「あるぷ」と、精神障がい者家族会で相談窓口を設置し、必要に応じて継続的支援ができるよう関係機関と連携を図ります。

7. 精神疾患についての病気理解に対するチラシの配布

精神疾患等についてチラシを作成し、フェスティバル参加者へ配布し、疾患理解の周知をしました。

8. ボランティアの活用

地域の学生(高校生、大学生等)にボランティアとしてイベントへ参加いただき、当事者等との交流する機会を提供し、障がいへの理解の促進を図りました。

○上記活動の成果について

参加人数：約 400 名（受付にてパンフレット配布 300 枚）

1. 精神障がい者が身近であることの意識の向上

受付や各ブースにおいて、精神障がい者に関連するチラシ（「統合失調症への理解を！」、当事者の会のお知らせ、障害年金に係る勉強会開催について等）を配布し市民の方へ精神疾患や障がい者等について周知する機会となりました。

和太鼓演奏後の太鼓体験、信濃の国体操、ワークショップ（ピンクッション作り）や物品販売、ゲーム等を地域住民と精神障がい者の方が一緒に行うことで交流し、周知の機会となりました。また、「スタンプラリー」で各事業所が企画したブースを訪れ印を集めることで記念品がもらえる



【和太鼓演奏・信濃の国体操】



活動成果報告書

という企画を盛り込み、安曇野市内にある各事業所について知ってもらう機会となりました。

2. 当事者の社会復帰の一助

当事者が社会・地域住民等との交流を図り、社会復帰を目指す機会となりました。

当事者の方からは、実際に自分の作成した製品が売れているのを見て嬉しかった、との意見があり就労意欲の向上につながっています。また、ワークショップではピンクッション作りの講師として地域住民と交流を図りました。



【キャラクターとの記念撮影】

3. 相談窓口の周知

今回は障害者総合支援センターと、家族会による相談窓口を設置し、相談件数は2件で、相談内容は「就労について」「病気について」でした。件数自体は少数でしたがじっくりと対応することができました。

4. 次世代を担う若者の人格形成

地元の高校生・大学生のボランティア5名の参加があり、当事者と一緒に受付・販売やチラシ配布、キャラクターに入り住民と触れ合うこと等を行っていただき、社会参加による経験の機会を提供しました。

5. アンケート集計結果について

イベントを何で知ったかとの問いに、広報24%、イベント会場「みらい」（市内図書館）への来所41%、その他35%という結果から、当日会場にてイベントを知った方が多数となりました。上記データより関係機関等へのチラシ配布による周知も効果があったと考えられます。会場が図書館施設であり、子どもから大人まで幅広く参加していただくことができました。

参加しての感想については「楽しかった」75%、「普通」25%となっており、「障がいの有無を問わず楽しい時間を共有する」という目標は概ね達成できました。また、企画の中では、無料配布、スタンプラリー、障害者施設の物品販売等が好評を得ました。

◇今後の計画

1. フェスティバルの定期開催

精神障がい者は増加傾向にあります。また、まだ理解されていない疾患・障がいがあります。また、精神疾患の予防及び早期の対応には周囲の理解が必要不可欠であり、定期開催を通じ、精神障がいに対する地域の理解促進・啓発を継続して進めます。

2. 早期発見、早期治療による精神障がい者の社会復帰の促進

思春期等早い段階での発見・治療が重要となり、関係機関と連携のもと、切れ目ないきめ細やかな相談支援体制の充実が求められています。また、社会復帰途上にある当事者等に適切な事業所等へ繋ぐ支援や生活の質の向上を目指す必要があります。これは安曇野市「障害福祉計画」の理念でもあります。

3. 関係機関とのネットワークの強化

地域課題の共有、解決策の模索を図り、関係機関と連携し「精神障がい者が安心して生活する地域社会」づくりを目指し、更なる地域ネットワークの強化を図っていきます。